



座談会 わが町のまつり文化

森口 テーマは祭ということですが、非常に幅が広く定義的には、本来、神とか祖先を迎えて、超自然的なイメージでもてなして、一族あるいは村の平和としかあわせを念願する集団的な儀礼であった様に理解しております。

これが集団の祭りとなりますが、祭りには又、家の祭りというのがあります。集団の祭りには日本固有の文化を伝える祭礼というものがあまして、これは人々の目には、ふれにくいものです。この事は後ほどお話し頂くとして、祭りに伴って神を迎えてもてなすものですから、段々と賑やかになって来ます。

そういうものが、「だんじり」とか「みこし」とか「おかげら」や「獅子舞」とかに芸能化され、人々の目につく、いわゆる「まつり」として発展してきたものと思えます。

又、仏教の影響もあり、それに伴って盆踊りとか地藏盆という祭りの形態も派生してきたものと思われま

す。一方、どんどん変化してきて、例えば都市においては、区民まつり、フェスティバルの様な人工的な祭り

もあります。

祭りというものは、神事からはじまって、芸能化され人工的な祭りに発展してきました。

又一方、個人の家の祭りというのもありまして、正月の行事からはじまって、ひなまつり、五月のこいのぼり、七夕まつり、それからお盆の前に迎える祭りという様な家のまつり、広い意味で村の祭りがあるとすれば、個人の家の祭りという祭りもあります。

只、祭りというものに共通するものといえば、暮しの中の節目、祭りを通じて地域の連帯感とか、村に関する帰属意識といいますが、我々は、ここに住んでいるんだという意思表示の顕れと解することもできます。

又、歴史・文化・伝統を守ると同時に、それを通じて町が賑っているという、ひとつの在り方ということもできます。

温故知新といいますが、昔はこうだったということを書いて出して、そこから未来の祭りを模索するというのを今回のテーマとしたいと思います。

ご出席

座長	降次	(大阪市立博物館長)
森口	清作	(理事長、 <small>コミュニティ協会</small> 区民まつり 実行委員長)
山口	靖司	(副理事長)
平池	弘	(副理事長、企画委員長)
清水	慶子	(監事)
金岩	譲	(大阪府文化財愛護推進委員)
友田	治海	(理事)
小川	博明	(理事)
備後	博行	(常務理事・東成会館長)
丸野		

祭りにおける

農村型と都市型

森口 大阪では多種多様な祭りが点在すると思います。東成区には特異な祭りがあったのでしょうか。

友田 明治以降、農村での一般的な祭りは確かに変わってきました。

最も顕著な祭りとしては、秋祭りだけでしたが都市化の影響で天神祭りの様な夏型の祭りが台頭してきました。明治末期から大正にかけて夏祭りというものが盛んになってきました。例えば、お弓祭りなどは、旧正月の十一日に武者が矢を射るのです。その当たり具合で一年間の農作物の出来、不出米を占ったのです。現在では、道具だけが残っていますが、形態としてはすてなくなりしました。又、深江のふいご祭りなども特色のひとつと思います。

森口 確かに都市化の影響も大きいですよね。秋祭りはいつ頃まで盛んでしたか。

友田 そうですね、大正の終わり頃までは一々にしてる生活に密着してましたから。大正十三年頃には、まだ東成郡だったので、農地、つまり生活様式が農家ということもありまして、まだ行なわれていた足跡はあります。

森口 周辺の農地だったのが、徐々に住宅化していく、そういう過程を経て農業と結びついた祭りというのは自然消滅していき、現実にあつた祭り(夏祭り)へと移行していく、いわば歴史的必然性の様な印象も受けます。

友田 年中行事の一環として小正月のときには、どの村でも「どんど」をしております、その火種を家に持って帰りまして、地域一帯あづきがゆを炊いて小正月を祝ったという例もあります。

山口 日本の産業構造の変化、つまり農業から商工業

中心に変わってきました、やはり国民の職業自体が変化してきましたからね。それと、秋期には穀物の大半、あるいは収入の大半を求められて、それが喜びの行事でもあったのが、それもなくなる、秋には神の催事はやっていますが、一般の参加者は少ないです。

小川 夏祭りと秋祭りのお話ですが、夏祭りというのは町型が多く、秋祭りには農村型だと、確かに夏祭りは、天神祭りや祇園祭りが代表されるものと思えますが、ひとつの見方として昔は農業の場合、肥料は使うが、町ではその肥料の処理に困惑するということがあつて気候、風土的に非常に不衛生なものが夏に波及し、それが悪病の因になりそれを退散させる為に町の祭りが賑やかになったという考えをもっておりまして、ご承知の様に日本は湿気が多く、そういう不衛生なことを放置されると悪病の因になるといわれています。

友田 江戸時代(東京)では人口百万人の都市ですからね、当時ロンドンですら六十万人ですから、世界の中でも最大の都市でしょう、まして、狭い所にそれだけの人口ですから当然ながら疫病が発生する、とくに六月頃梅雨どきに流行りやすいのですが、当時の考え方として、疫病は悪い神、即ち疫病神が運んでくるという信仰的なものがあつたと思います。

その中で一番強い神様の力によって放逐しようじゃないかと、当時京都で一番強い神様は、スサノヲノ尊を祀っている祇園さんなのです。その力で追い払うということでした。

森口 要するに秋型の祭りだったのが、夏型の祭りに移行してきたということでしょうね。

私は祭りという「だんじり」というイメージがあるのですが、昭和三十三年の「東成区史」には、八王子神社が昭和三年、戦前まで曳行したという記録もあ

りますし、比売許曾神社では、獅子舞が巡行したというのがありますか。

平池 子供の頃、熊野神社あたりで曳いて歩いた記憶はあります。時代の移り変わりで、内容もずい分、かわってきたと思います。

山口 だんじり曳行の場合、警察の許可がなかなか困難でありまして、もちろん地車保存会はあるのですがごく近辺を巡行するにとどまっています。

確かに交通事情からすると危険とは思いますが、

森口 では、だんじりの稽古ほどの辺でなさるのでしょうか、例えば、お囃子とかは。

平池 境内しかないでしょうね。

友田 昔は、なかなかうまくいっておりまして、青年団の中で先輩が後輩を指導するという形態を村単位で行っていました。いわば、社会教育機関的な役割も自然に確立していたと考えます。現在では、そういうものがなくなり青年同志のコミュニティも以前に比べてずい分希薄になったと思います。

森口 そうですか、言い伝え、伝承という形態が風化してしまつたのですね。それはどういう理由でしょうか。だとしたら、現在はどのようなふうにか？

友田 例えば、地車保存会など、好きな者達が集まっていますが、お囃子や巡行のノウハウなんか伝承していたわけですが、若中会などは、かつて村に住んでおれば必ず入会しなければならぬ風習みたいなものがあり、そうでなければ、村八分にされるといふ、いわば良い意味での封建性があつたように思います。

伝承文化としての祭り

森口 確かに伝承というものは、文化として重要だけ

ではなく、何かを伝えていく、いわゆる人から人への架け橋があることで、はじめて社会が成立するものとして、そういう意味で、やはり地域のコミュニティには「地車」というものを今一度再考して頂きたいものですね。

それから先程お話をしましたが、獅子舞はどうでしょうか。確か区史には昭和三十年の秋まつりから登場したとありますが――。

清水 昔から、比売許曾神社にありました。子供の頃から小銭をもらって、よく見に行つたものです。

金岩 今里では、青年会や子供会が、それなりに伝承しています。七・八年前から、例えば成人式などの行事にプロログとして花を添えています。又、熊野神社の夏祭りには獅子舞やだんじりが商店街を巡行しています。

備後 私もよく憶えています、子供時分、獅子舞が来て恐かつたのでしよう、家の中へとじ込めたことがありました。(笑)

森口 やはり昔の古き伝統をよく知っている人が子供達にしっかりと伝承して頂きたいものです。昔のことですが、私の出身地では、祭りというと、サーカスだとか、夜店、のぞきからくりなどがあつたように記憶するのですが、当区ではどうでしたか。

山口 そうですね――お宮さんに店が出て、確かサーカスのようなものもあつたように思います――。

森口 祭りというと露店というものがつきものなんです、どこの祭りへ行つても同じような物しか売つてないですね。当区では何か珍しいものがありましたか。

備後 胎細工や岡子細工などがありました。といつても約十年前のものです。

金岩 今里ロータリーの近所には流しの猿回しがよく来てました。それからマジックショーもあつたように

記憶していますが。

森口 いわゆる大道芸ですね。

小川 大道芸といえば、芸人さん達が広場へ集まつてきて、何かやってた様なことは憶えていて、投げ銭をしました。子供の頃、そういう思い出があります。

友田 ただ問題は、演者が老齢化してしまつて、後継者がいないということでしょうね。マスメディアを通してしか、お目に掛かれなくなつたような気がします。すでに文化的な存在になつてしまつたくらいはあります。そこで先程も言われたように、菓子類などの食品については、衛生上の問題で、なかなか許可がおりないというジレンマがありまして、段々とそういった類は衰退していったのでしよう。

備後 確かに熱を通さない食品は売りにくいですね。

森口 そういった事情はおっしゃる通りだと思いますが、やはり祭りの楽しさというものは、夜店があり、



様々な声や熱の入つた仕草に見い出すものなのではないですね。

森口 ところで本来道祖神というのは、歳ノ神様なんです、今、どういう形でされているのですか。

金岩 10月の最終の日曜日に祭りをするのですが、七色の旗を立て、穀物や野菜をお供えして神主さんに御払いをしてもらい、絵馬を奉納するわけです。

その絵馬というのは、干支が描かれていて、ちょうど「大阪築城四百年」を契機に復活したもので、翌年の猪で終了することになります。もちろんそれまでは近所の方達が守つていたわけですが。

森口 それはおもしろいですね、いつてみれば、地域が育てた祭りということでしょうね。食べ物なんかどうでしょうか、独特の料理をされるのですか。例えば氏神の祭りとかには――。

清水 バラ寿司をつくつてましたね。

友田 くるみ餅ですね。これは枝豆を蒸し、あん状にして和えるわけです。それで例えば、隣りの村の親戚へもつていく、そういうことが行なわれていました。

森口 では祭りのときの服装についてはどうですか、晴れ着など用意されてたのですか。

金岩 昔は、夏の祭りには、絵柄の入つた結の着物など用意してました。最近では、ほとんど浴衣ですね。

友田 その点については、今の若い人達は情報をとり入れるのが早いので、デザイン的にカッコいいところだけ導入しているところが見受けられます。これは多分に岸和田のだんじり祭りあたりの影響かなと思うところがあります。本来は地域によって、お囃子や衣装も違つていたはずですが、独自性というものがなくなつてしまつた様な気がします。

森口 確かに若者の特権みたいなところがありますね。

「座談会」わが町の今昔

区民まつりの

課題と展望

森口 そこで本来の祭りがある一方で、都市の祭り、いわゆる区民まつりということですが、当区では、いつ頃から始められたのですか。

清水 20年になるでしょうか、本年度で21回目とされています。それ以前は体協主催の民謡大会と称してやっておりまして、各校下を順番に回っていたのです。それから途中で大阪市の要請があり、区民レベルでのイベント即ち区民まつりを実現したいというお話があつてから最初の十一年間は各11校下の巡回方式で来たわけですが、ところが、校下によつては競争意識みたいなものが生まれ、年々それが拍車をかける結果となり、少ない経費でグローバルに実施するという基本理念から少々逸脱してきた経緯がありました。だから当然年々地域の負担が重荷になってきたのも事実で、それに対するクレームもいくつかは耳にしたことがあり、そういうことがあつて、現在の様な一ヶ所で集中して行なわれるようになったのです。

思うに、従来あつたある限定された行事というセレモニーに「祭り」というネーミングを施して、区民の参加を促したということになるでしょうね。ですから敬老会などもひとつの祭りといえるでしょう。

森口 考えてみますと、祭りというものは、従来、信仰の儀礼であつたのが、お祝い向きに変わってきた様な感じがしますね。だから先程の敬老会や何かの目的で参加し、集うというイベントは、形式は様々ですが、祭りの本質から少しも外れていないと思いませんか。

そもそも祭りとは、賑わいであり、生活における楽しみでもあるわけですね。

ところで、お子さん達の参加はどの程度あるのですか、増えているのでしょうか。

小川 各校下の子供みこしを出すようになってから、主会場へ集結した時は、一番盛り上がりたのではないかと思います。

友田 ただ伝統的な神社の夏祭りが区民まつり実施日と非常に接近していて、夏祭りの3日後に区民まつりが実施されるケースがありまして、いざ子供みこしを担ごうかという段階で子供達は、大変疲労していて、エネルギーがそこまで及ばない。ですから、区民まつりを少し延ばして頂いて、秋頃にもっていけないかどうか、望むところです。

清水 秋期に区民まつりを実施ということになりますとなかなか各校下の足並がそろわないと思います。地域によつては、様々な行事が入ってきますし、お盆過ぎでは余計に困難なので、実のところ、8月の初旬にしているわけです。

備後 ここ最近、子供みこしの出場はありませんが、それに代わる子供コーナーがありまして、各地域の子供達が集団で参加しております。

友田 折角だんじりというものがありますので、区民まつりの賑わいの一端として参加するのも一興と思うのですが。

それと話に出ませんでした。各町内で地蔵さんが非常に盛んでして、おおまかにいえば、一町会にひとつぐらいの割合で分布していると思います。

地蔵さんを介して、町会単位という小さな地域でコミュニティが円滑に作用している場と考えています。どういふことかと申しますと、それは子供の守り神だったり、古くは歳の神様だったのですが、かつては大阪独自の地蔵盆踊りがありました。現在は完全に消失したのですが、町会でご近所寄つて、この踊りが出来ないかとも思います。

聞く所によれば、吉本興業でこの踊りの元となる民謡を伝承する人がいらつしやるらしいのですが、東成

へ導入して、地蔵盆としてふさわしい祭りが伝承出来るのではないかと思いますね。

清水 だんじりに関しては、ただ問題は、当区の場合道幅が狭いという難点に加えて、交通規制があつて様々な難関をクリアしなければならぬ。簡単にはいきませんね。

森口 従来あつた昔の上着的な祭りとし新しい都市化された祭りを、どう行くミックスさせるかが今後の課題と思つて、これからの区民まつりを考える上で必要なことでしょうね。

編集後記

子供の成長、町内の安全等を願つてとり行なわれる各地域の地蔵盆、明るい連帯感あふれる町づくりを目ざして開催される各校下の盆おどり大会やイベント、地域住民の繁栄と安泰等を願つて実施される日本古来より伝わる各神社の祭事、明るく楽しく健康に、をテーマに繰りひろげられる区民まつりや各種団体の区レベルのイベント等を通して東成区内のコミュニティの輪が一石を投じて、水面が波紋を描く様に小さなものから大きなものへと広がってゆくのを感じられます。

編集に際しましては、区民の皆様方よりご寄稿ならびにご協力を賜わりありがとうございました。紙面の都合により寄稿の一部を割愛させて頂いた事をお詫び申し上げます。 編集部

東成区 わが町の

まつりフォト

発行 日 平成七年三月

編集・発行 助東成区コミュニティ協会

大阪市東成区大今里西三六一六

電話〇六一九七二一〇七一一

印刷・製本 マスタ印刷工業社